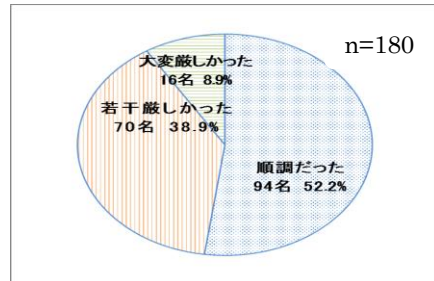


当協会が主催する「新入社員合同研修」の参加者を対象に、2012 年より「新入社員意識調査」を実施している。今回は参加者 180 名（50 社より男性 136 名、女性 44 名）のうち 180 名から回答を得た。（調査日：2019 年 4 月 4 日）

問 1. 就職活動を振り返って

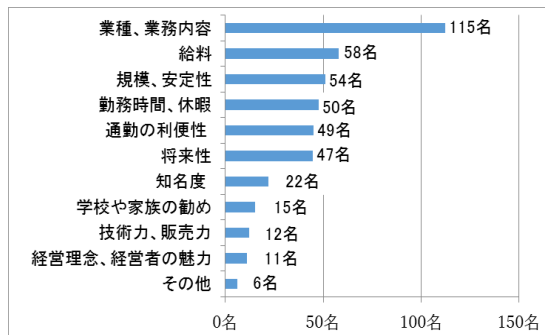
「順調だった」が 94 名(52.2%)と、3 年連続で調査開始以来最高となった。一方、「若干厳しかった」70 名(38.9%)と「大変厳しかった」16 名(8.9%)は、ともに調査開始以来一番低い割合となった。

※参考：昨年度「順調だった」43.1%



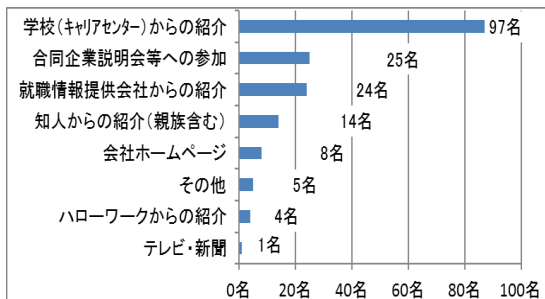
問 2. 就職先を選ぶ際に重視した点は？（3 つまで選択可）

「業種、業務内容」が 115 名と最も多く、8 年連続のトップ。以下やや差があつて「給料」58 名、「規模、安定性」54 名「勤務時間・休暇」50 名等が続いている。2012 年調査時の「給料」は 7 番目であつたが、近年、就職先選定の重要項目となつてきている。



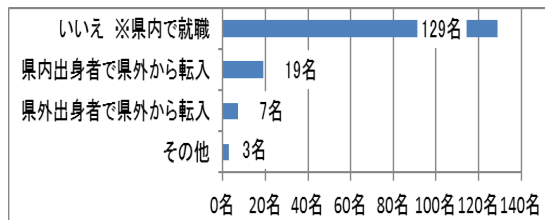
問 3. 就職先の求人情報をどのツールで知ったか（新項目）

「学校からの紹介」が 97 名と最も多く、以下「合同企業説明会等への参加」25 名、「就職情報提供会社からの紹介」24 名、「就職情報提供会社からの紹介」が 24 名と続く。ハローワークの利用が少ない結果となつた。



問 4. 就職にあたり、県外から転入してきたか（新項目）

「いいえ」が 129 名と最も多く、今年度は U・I ターンは少ないことが伺える。



問 5. 就職した企業は？

「希望どおり」が 128 名(71.5%)、「ほぼ希望どおり」が 47 名(26.3%)の回答であつた。両者を合わせると 175 名(97.8%)である。問 1 の回答状況に比例し、調査開始以来最高となった。加えて、4 名(2.2%)が「当初の希望からは遠い」と回答し、こちらも調査開始以来最低であつた。

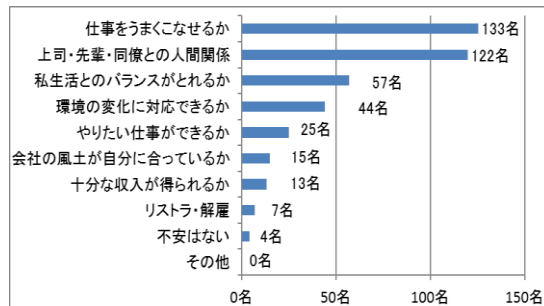
※参考：昨年度「希望どおり」50.7%

問 6. 社会人としての自身のセールスポイントは？（3 つまで選択可）

「協調性」61 名、「忍耐力」54 名、「責任感」51 名の 3 項目が 50 名以上であつた。次に「集中力」、「明るさ」などが続いている。

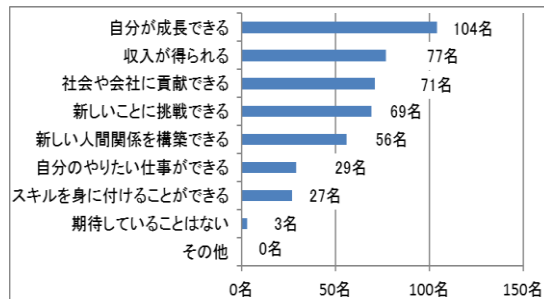
問 7. 社会人生活に対する不安（3 つまで選択可）

「仕事をうまくこなせるか」が 133 名、「上司・先輩・同僚との人間関係」122 名と続いている。「私生活とのバランスがとれるか」57 名よりも、仕事と人間関係を不安に思う項目が多くなっている。「不安はない」は 4 名だけであつた。



問 8. 社会人生活での期待（3 つまで選択可）

「自分が成長できる」が 104 名、次いで「収入が得られる」77 名、「社会や会社に貢献できる」71 名、「社会や会社に貢献できる」71 名、「新しいことに挑戦できる」69 名などが続いており、昨年と同じ傾向となった。



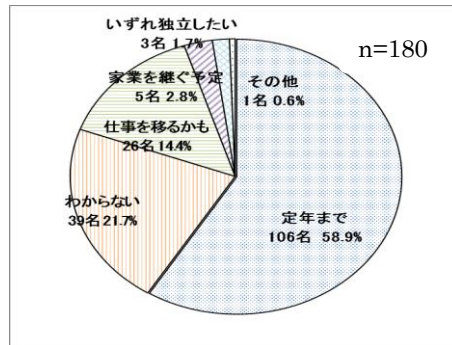
問 9. 仕事とプライベートについて

「プライベート優先」「どちらかといえばプライベート優先」の合計は 102 名(56.7%)、「仕事優先」「どちらかといえば仕事優先」の合計は 78 名(43.3%)となり、全体としてプライベートを優先する傾向があるが、昨年と比べ仕事を優先する意識が高くなっている。 ※参考：昨年度「プライベート優先」項目合計 74.2%

「仕事優先」項目合計 25.8%

問 10. 今の就職先でいつまで働こうと思いますか？

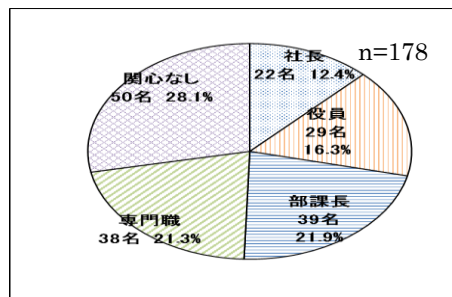
「定年まで」が 106 名(58.9%)で最も多かつた。一方、「わからない」39 名(21.7%)、「仕事を移るかも」26 名(14.4%)と続いている。「仕事を移るかも」「いずれ独立したい」「家業を継ぐ予定」を加えると 34 名(18.9%)が今の就職先を「いずれ離れる」としている。 ※参考：昨年度「定年まで」48.8%



問 11. 自身の昇進について、どこまで目指しますか？

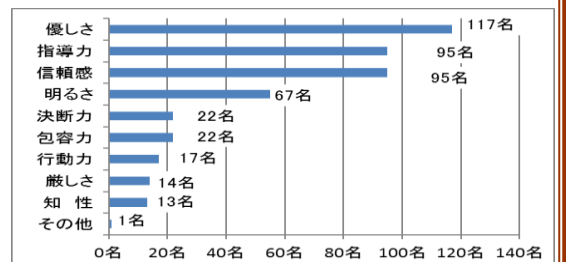
「昇進にあまり関心がない」が 50 名(28.1%)で最も多く、以下「部課長」39 名(21.0%)、「専門職」38 名(21.3%)、「役員」29 名(16.3%)と続いている。

※参考：昨年度「関心なし」34.1%



問 12. 上司に求めるものは？（3 つまで選択可）

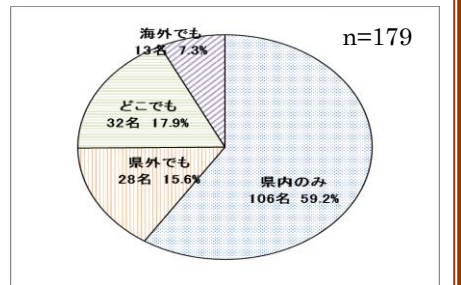
「優しさ」が 117 名で最も多く、次が「指導力」および「信頼感」がともに 95 名で続いている。例年どおりの 3 項目が高い結果となった。



問 13. 働く場所について自分の考えに最も近いのは？

「富山県内でずっと働きたい」が 106 名(59.2%)で最も多く、「働く場所にはこだわらない」32 名(17.9%)、「富山県内だけでなく県外でも仕事をしてみたい」28 名(15.6%)で続き、「機会があれば海外でも」は 13 名(7.3%)、3 年連続で 5%超)であつた。

※参考：昨年度「県内のみ」46.4%



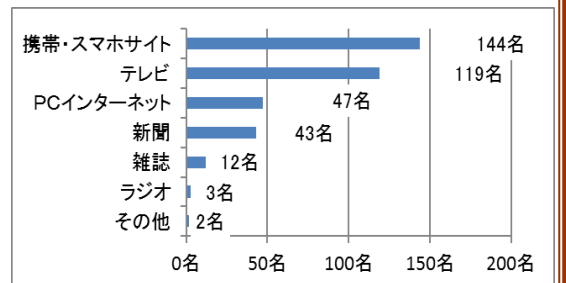
問 14. 将来、あなたに海外転勤の打診があったら？

「国・地域しだいで検討する」が 79 名(44.1%)で最も多かつた。「断る」は 65 名(36.3%)、「国・地域を問わず赴任する」は 35 名(19.6%)であつた。

※参考：昨年度「断る」27.7%

問 15. 日常的な情報収集メディアは？（3 つまで選択可）

「携帯・スマホサイト」が 144 名(38.9%)で、5 年連続のトップ。2012 年調査時は 4 位であつたが、飛躍的に伸びている。次いで、「テレビ」119 名、「PC インターネット」47 名が続いている。スマホの普及による影響か、ネットによる情報収集の比率が減少傾向にある。



<まとめ>

- ・今年度の新入社員の就活の状況は問 1 および問 5 より、就職売り手市場を反映して全体的に良化した。希望した企業へ就職できたことが、問 9 の「仕事を優先」する意識や、問 10 の「定年まで勤めたい」という意識の向上に繋がったと考えられる。
- ・求人情報のツールは問 3（新項目）より、通っている学校（キャリアセンター）からの紹介が多いこと、問 4（新項目）より県内での就職が多いことがわかった。総合して、県内の学校はキャリアセンターの就職斡旋に注力し、効果が出ていることが伺える。
- ・以上より、今年度は希望する企業への就職が叶った傾向が強く、新入社員の仕事に対する期待値は高い状況にあると考えられる。一方、世間では 3 年で 3 割が退職すると言われている。依然として企業では人手不足が続いている状況下、人材流出による痛手は大きいことから、早期退職を防ぐ取組みが必要不可欠となる。

以 上